

「令和元年度 北海道青年農業者会議」発表審査講評

全道各地から青年農業者210名、関係者119名、合計329名が集い、北海道青年農業者会議が開催されました。本会議では、青年農業者の皆さんが、日頃の営農活動や地域活動を通じて取り組んだプロジェクト23課題の成果が、4部門に分かれて発表され、活発な情報交換が行なわれました。また、アグリメッセージでは、発表者11名から、農業にかける熱い思いを込めた発表が参加者の心をとらえ、涙あり、笑いありの個性豊かな語り口に、会場はおおいに盛り上がりました。

ここに、発表された皆様の健闘を讃え、助言者及び審査員を代表して、感想や気づいた点を述べますので、今後のプロジェクト活動及びアグリメッセージの取り組みや発表の参考としてください。

■プロジェクト発表（23課題）

プロジェクトは、青年農業者組織の結束を高めるための重要な活動です。

発表する内容は、「興味があり、関心の高い日常の営農や生活において問題点を発見し、解決するための目標を定め、計画的で合理的に実施し、これを通じて農業改良等に関する知識と技術を身につける実践的学習活動」です。

各自がプロジェクトの課題を持ち、それをクラブ活動の中でお互いに助け合って解決し合い、成果の交換を図ることを基本としています。

【各部門ごとの講評】

◇園芸・特産作物部門（4課題）

助言者：農政部生産振興局技術普及課 主査（普及指導） 大平 誠

- ① 園芸・特産作物部門の4課題は、野菜生産の技術および経営改善を中心とした内容でした。具体的には、省力的栽培技術の検証、生産性向上を目指した取組みや直接販売方法の実践であり、いずれも自家の経営改善や地域への波及が期待される活動でした。
- ② 良かった点
 - ・写真や図を効果的に使い、聞き手にも分かりやすく説明する姿勢が見られました。
 - ・全ての発表が制限時間内であり、練習を積み重ねた様子が伺えました。
 - ・問題解決の鉄則である「現状把握」および「課題設定と問題点の抽出」を丁寧に行い、これに基づくシンプルかつ具体的なテーマを設定して解決を進めているプロジェクトがあり、とても関心しました。
 - ・複数年にわたるプロジェクトでは、PDCAサイクルを回しながら課題解決を進め、地域に適した技術へとブラッシュアップしている様子が理解できました。
 - ・最新のツールを活用しながら課題改善を図るテーマがあり、若手らしいセンスが感じられました。

・調査結果を整理し、生産性と経済性を検証しており、自家の経営への定着や地域内への波及につながると評価されます。

③ 改善してほしい点

・発表練習を重ねた様子は伺えましたが、一部で原稿を読みながら説明している光景や、声がやや小さいと感じる発表もありました。原稿を見ず、時には手振り身振りを交えながら重要な部分を強調するなど、聞き手に対して堂々と訴えかける発表ができるとより良いでしょう。

・成果が明確である反面、取組経過やデータ類の提示・説明がやや性急であると感じる発表が目につきました。テンポ良く発表することも大事ですが、聞き手が理解できる構成も必要です。

・発表内容に深みを持たせるために、苦労した点にも言及すると良いと思います。

・配布資料では、スライドのページを切り取って貼り付けた事例が目につきました。人前で説明することだけでなく、分かりやすい資料づくりもコミュニケーションの要諦であり、聞き手の理解度がより深まります。そのためには、プロジェクトのストーリーの流れを強く意識しながら、紙資料のレイアウトや表現を工夫して作成すると良いでしょう。

・導入する技術について、単年度の結果のみで適否を判断する発表がありました。農業生産はその年の気象条件等に生育が左右されやすいので、データ精度を高めるために年次反復を行った上でデータを分析し、可否を判断することが必要です。

・構築した技術について、それを導入する上でのメリットだけではなく、導入上の留意点やリスクを示すことも、地域に波及を図る上で必要な情報であると考えます。

④ 最優秀賞は「未来にコミットする！タマネギ直播栽培編～第二幕～」上湧別コミットクラブ 小崎 光さんの発表です。

・発表は、地域の農業者数が減少する中、地域全体のたまねぎ生産量を維持するためには、1戸あたりの作付規模を増やす必要に迫られていることが予想されます。これに対処するには省力化が不可欠であるため、その手段としてたまねぎの直播栽培に数年前から試行錯誤しながら取組んだという内容です。

・良かった点としては、課題選定の背景と取組内容が明確かつ具体的であることと、たまねぎ直播栽培に関するプロジェクトを複数年取組んでおり、内容に継続性が見られる点で評価しました。また、発表が抜群に上手く、ポイントを強調しながら力強く説明する様子が圧巻でした。

・今後に向け、これまで得られた成果と合わせて、次年度以降にも着手するプロジェクトの結果を組合せ、地域に適したたまねぎ直播栽培技術を体系化して欲しいと思います。

・以上、いずれの発表課題も継続的な活動により更に発展可能で、自家の経営・労働改善や地域への貢献度が高い活動です。今後も皆様の斬新な視点と熱い心、そして地域を動かす行動力に大いに期待しております。

◇土地利用型作物部門（4課題）

助言者：農政部生産振興局技術普及課 総括普及指導員 上堀 孝之

- ① 土地利用型作物部門は、作物生産の技術および経営改善を中心とした内容です。
- ② 良かった点
- ・ 4 課題中 3 課題が担い手不足による面積拡大への対応をテーマとしたものであり、地域の参考となる取り組みがなされていた。
 - ・ 発表は聞きやすく、プレゼンテーションの内容もよくまとめられており、聴衆にとっても理解しやすかったのではないかと思います。
 - ・ 地域の概要や課題選定に至った背景・理由も明確であり、残された課題についても述べられていた。
- ③ 今後改善して欲しい点
- ・ 発表時に原稿を読んでいたのが 4 名のうち 3 名であった。完全に暗記する必要はないが、内容を頭に入れて前を向いて発表すると、より伝わりやすいつと感じた。原稿を読む場合でも「聴衆に伝える」という意識を持って、時折顔を上げるとよい。
 - ・ 取り組みの中でもう少し掘り下げたら良いと思えるものがあった（調査方法の工夫も含む）。
 - ・ また、課題解決に向けた対策が掲げられていても、具体的な方法が述べられていないものもあった。
- ④ 最優秀賞は「小豆狭畦栽培に挑戦！Part 2 ～ラクラク栽培と新たな可能性～」新篠津村新米塾 宮田 大輔さんの発表です。
- ・ 参考になる点・特徴点は労働力不足や経営面積の拡大、近年の土壌病害虫の発生を背景として、輪作体系に組み込む新たな作物を選定し、省力化技術を検証することで、導入の検討がしやすく、地域への波及効果が高い取り組みである。
 - ・ また小豆を選定し、栽培事例の少ない狭畦栽培を取り上げ、導入による省力化の可能性や栽培上の留意点がていねいに検討されている。初年目の取り組みの反省も踏まえた取り組みとなっていた。
- ⑤ 今後改善して欲しい点
- ・ 狭畦栽培の有効性が示されているが、慣行栽培との比較がなかった点が残念であった。
 - ・ 新たな技術を導入することにより何がどのように変化（改善）するのかを示すことは地域への波及を進めるために重要であり、次年度に向けて検討願いたい。
 - ・ 出芽不良等の課題に対して、なぜそうなったのか、どのような改善策があるか、掘り下げて検討していただきたい。また、そうすることで次年度以降の活動にもつながると思う。
 - ・ 今後の課題が明確に示されているので、継続して取り組み、新篠津村の小豆狭畦栽培の体系を確立するとともに、新たな輪作体系につなげていただきたい。
 - ・ 発表の際は、胸を張って前を向いて発表することを心がけて下さい。
- ⑥ その他全般的に気がついたこと
- ・ 「なぜこの課題に取り組んだのか」、「なぜこの調査を行ったのか」などを自分の中で整理しておく、自信がつくし、質問にも的確に答えることができると思う。
 - ・ また、取り組めなかった点、取り組んでも結果が得られなかったものも整理し、次年度の課題として検討して欲しい。

◇畜産経営部門（8課題）

助言者：農政部生産振興局技術普及課 総括普及指導員 寺田 浩哉

① 全体について

・今回の発表は8課題でした。新規の課題、継続中の課題、集大成の課題などありましたが、それぞれの活動期間の中でよくまとめられた課題が多く充実した発表会だったと思います。発表態度は、発表者各々大会に向けた練習の成果が現れていたと思います。しかし、原稿を読まずに会場の参加者に語りかけるような発表は、聞く側の印象・好感度が大きく違いますので、今後の発表練習に生かしてください。発表時間は時間内に終了する発表が多く、日頃の練習の成果が現れていたと思います。

・また、新たな技術にチャレンジするプロジェクトも多く、固定概念にとらわれない柔軟な発想で実践する、青年らしい発表がありました。そこには、指導機関やメーカー技術者の助言をしっかり受け止め、プロジェクト活動に繋げている姿勢もうかがえました。

・一方で、背景と課題は分かる発表が多かった反面、目標の設定が曖昧な活動、数値的な目標が示されていない活動があるため、どこへ向かって活動をしているのか分かりづらい課題もありました。目標（数値的目標）が始めにしっかり示されていれば、聞く側も目標を頭にインプットして、短い発表時間の中でも活動が目標に近づいているのかどうか判断しながら聞くことも可能です。

・今年度で終了した課題については、地域で発表の場を設け活動をPRして頂きたいと思います。また、活動が始まったばかりのプロジェクトは目的をぶれることなく継続されることを期待します。

② 最優秀賞は「3ヶ月齢で決まる初産牛の差～酪農の進化は子牛から～」JA大樹町山下 陽子さんの発表です。

・発表態度は、原稿を読まずしっかり前を向き、自分の言葉で会場の参加者へ語りかけており、発表者の中で特に優秀でした。

・実家に就農後繁殖管理を担当する中で、初産牛の繁殖成績の不調が、過密な飼養状況と牛体が小さい事が要因と突き止め、ほ育～育成期（4ヵ月齢）の飼養管理の見直しを行った結果、初産の大型化を実現、繁殖成績も向上し、初任販売頭数が増加しました。

・以上の取り組みを行った牛群において、大型化した初産牛は乳量の向上に繋がるという確信の基に検証を行いました。その結果、3ヶ月齢目で体重が120kgを超えていた初産牛の個体乳量が高いことが分かりました。更に初産時の体重が621kgを超える牛の個体量は高く、これまでのプロジェクトの取り組みが正しかったことを確信しました。

・発表者の自家の牛群傾向を読み解く分析力と問題を掘り下げ根本原因を追求する展開にストーリー性があり、また活動内容を分かりやすい表現で伝えることで、参加者が思わず自ら「取り組んでみたい!」と思わせるような内容でした。

・また将来、子牛をキーワードに経営が向上し、その結果できる金銭や心のゆとりをもって生まれ育った大好きな大樹町のために貢献したいという思いが伝わりました。

・会場からの質問にも適切に回答しており、取り組みに対する自信が伝わってきました。

③ 今後改善して欲しい点

・提出資料は文章と図表が同一ページに収まるようにする（図3、図4）。また、表1

の根拠となる説明文章の記載する。

- ・ 3ヶ月齢目の体重120kgを導き出した根拠をまとめておく。
- ・ 活躍する初産牛と生後1日目の子牛の関連について自身の考えをまとめておく。
- ・ 今後も大樹町で生きていくための思いについて、女性の立場から考える「酪農業」や「地域貢献」について内容に取り入れる。

◇地域活動部門（7課題）

助言者：農政部生産振興局技術普及課 首席普及指導員 三宅 俊秀

- ① 地域活動部門は、青年学習グループがプロジェクト活動や学習活動のなかで地域へ働きかけ、自らのグループの活性化を図る活動を発表する部門です。
- ② 今年は、「食育」活動が3課題、「消費拡大・特産物づくり」意識した活動が3課題「労働改善」が1課題の合計7課題でした。
- ③ 「食育」の活動では、農産物を子供達と加工、調理して交流することを通じて、食の楽しさを伝えるとともに、農作物や乳牛の特徴を知ってもらうためにクラブ員で教材を工夫をこらしている取組もありました。
 - ・ 小さな子供達の「美味しかった」という感想や親からの声など、調理の楽しさや食の重要性をしっかりと伝わっていることが理解できました。
 - ・ 食育活動を通じて、何を子供達や親達に訴えていくのか、この活動からクラブとしてクラブ員として何が得られるのか、食育活動自体が活動目標とならないよう考え方の整理が重要です。
- ④ 「消費拡大や特産物づくり」の活動では、農産物の直売活動などによる地域の特産物の消費者へのPRや特産品による加工品づくりなどにクラブ全体で取組まれ、成果が上がりつつあることが解りました。
 - ・ 特産品づくりは、加工品を作ることがゴールではなく、安定して販売できるようになることが重要ですので、今後、継続した活動が期待されます。
 - ・ 消費拡大や特産物づくりは、青年組織だけの活動では成果は得られません。市町村やJAなどの関係機関と連携して地域全体の活動としていく必要がありますので、関係する組織との関わりをしっかりと整理していく必要があります。
- ⑤ 最優秀賞は「令和酪農働き方改革」枝幸4Hクラブ 石田晃介さんの発表です。働き方改革は、日本社会全体に問われている課題です。特に、農業分野では家族労働が中心で、就業規則等が設定されている経営が少なく、効率的効果的な働き方が求められています。酪農経営において、作業の効率化のためにGAPの手法を取り入れ、無理無駄の状況の確認などに取り組まれています。また、従業員を雇用している農業者の声や農業実習に参加している大学生の意見をきくなどして、労務管理の考え方を整理し、労働改善のためのマニュアルを作成に取り組まれています。今後、マニュアルに沿った課題解決が進められ、クラブ員はもとより地域全体で効率的な働き方を実現できる事を期待します。
- ⑥ その他全体的に気がついた点
 - ・ 活動の背景や目的と取組内容が一致していないプロジェクトが見受けられました。課

題を明確にし、その取組経過や活動結果をどう活かすか具体的に表現する必要があります。

・また、発表の中には、活動結果から活動目標を整理していると読みとれるものもありましたので、しっかりクラブ員で活動目的を整理共有してクラブとしての活動を進めてほしいと思います。

・全体的に良くまとまった発表が多かったと感じました。全体的には大きな声でメリハリのある発表が多かったと思います。しかし、まだ原稿を読んでいる発表や制限時間を超えた発表もあったことから、十分な事前練習をお願いしたいと思います。

■アグリメッセージ (11課題)

助言者代表：農政部生産振興局技術普及課 首席普及指導員 三宅 俊秀

- ① アグリメッセージは、日頃の営農や地域活動などの体験を通して、感じていることや青年農業者として果たす役割などについて、自分の言葉で訴えたい事を7分間にまとめて表現する場です。
- ② 本年は、男性10名、女性1名、年齢20～38歳と、多様な経歴を持つ人達から農業に対する思いや自分の考えや夢などが発表されました。また、海外研修制度で技能実習生として来日されているフィリピンの方の発表もあり、アグリメッセージも国際的になってきました。今回、発表された皆さんは、それぞれがしっかりした自身の意見を持っており、聴く者に感動を与える発表が数多くありました。
- ③ 新規就農者、新規参入者、Uターン就農者、嫁ターン就農者、会社の従業員、実務研修生、それぞれの立場から、農業・農村、農業経営への思いや自らの夢を語ってくれました。
- ④ 発表の良かった点として
 - ・各発表とも、しっかり聴衆を見て声量も十分なものが多く、それぞれの思いをがしっかり伝わるものでした。
 - ・農業後継者としての農業経営への向き合い方、従業員としての取り組む農業の大変さ、嫁ターンによる親と旦那さんと葛藤、学歴や職歴に対する価値観の相違など、多くの苦労や葛藤やとの取組姿勢や組むひたむきな姿勢や、農業の素晴らしさを広く伝えたいという地道な取組みにも感銘を受けました。
 - ・発表方法では、原稿を読まないで正面を向き、大きな声で、聴衆へのアイコンタクトに配慮した発表でした。
- ⑤ 最優秀賞は「田舎の農生活」を発表した、蘭越町4Hクラブの木村政義さんです。都会での生活を通じて、実家のある農村地域の良さを再発見し、農業や田舎暮らしの素晴らしさを強くアピールした発表でした。
 - ・都会では便利で楽しい生活を送れるものの、仕事以外での人との交流が少なく、精神的な疲れを感じたことが多かったが、故郷に戻った時に改めて農村地域の温かい「人とのつながり」を強く実感されたこと、このような温かな「人とのつながり」の良さを都市部などに広く発信していくことで、農村の魅力を多くの人に伝えていきたいという、

熱い思いがしっかり伝わってきました。

・発表態度は、声量もあり抑揚の効いた語りかける発表で、聴く者を引き込む内容でした。

・今後、発表を充実していく上では、田舎での活動内容や「人とのつながり」の部分をもう少し具体的にしていくことで、更に田舎暮らしの豊かさ、楽しさをアピールできると良いと思います。

■総括

日本農業は、関税撤廃など新たな国際環境下において、競争力ある農業づくりが重要となるなど大きな転換期を迎えています。

このような情勢のなか、発表者からは、安全・安心な農畜産物生産や新たな価値を創造する取組、省力・低コスト生産、ICTを活用した精密農業の推進など、新たな可能性や地域農業の維持発展の取組が報告され、全道各地の農業の力強さを感じました。

今回のプロジェクト発表では、時代や農業情勢の変化に対応した課題をテーマとした課題が多くありました。そのどれもが計画的に、自らの経営の課題解決に止まらず、地域全体の課題解決の視点を持って取り組まれていました。

これらのプロジェクトの取組姿勢は、今後の皆さんの長きにわたる営農に大きく役立つものと確信しております。

プロジェクト発表やアグリメッセージを通じて、自分達の経営を改善していくこと、自らの考え、夢を発表していくことは、参加者や地域の仲間との情報共有や意見交換によりお互いの成長を促すものです。そして、これらの活動は北海道農業の発展へとつながって行くものと思います。

プロジェクト活動などの内容を多くの人に理解してもらうためには、課題の背景や活動経過、成果内容についてしっかりまとめることが大切です。

また、めまぐるしく変化する農業情勢を押さえつつ、普遍的な農業生産における課題の解決、新たなチャレンジなど、今後、どんな行動が必要なのかを、家族や仲間とともに考えていくことが重要です。

次年度に向け、すでにスタートしている取組や課題化が検討されていると思います。

これからも北海道農業の役割は、豊かな自然と広大な土地資源を生かした消費者が求める安全・安心な農畜産物の生産です。さらに、それらの活動で経営を維持発展させていくことが重要です。

自分達がやるべき事にしっかり取組み、仲間とともに総合力を発揮していくことが重要と考えます。

本大会は多くの運営に関わる裏方の皆さん、発表者、参加者、関係者の協力によって運営されています。運営にあたった大会役員、運営委員、関係者の皆さんのご尽力に敬意を表します。大変お疲れ様でした。

今後もこのようなプロジェクトや意見発表の場が青年農業者の手によって末永く存続されることを期待しております。